

# 令和6年度 徳島県立しらさぎ中学校経営方針

## 1 本校の教育目標

### (1) めざす学校像

- ① 学び直しの拠点校として、多様な学習機会を提供できる学校
- ② 年齢や国籍などに関係なく、自らの可能性を広げることができる学校
- ③ 生徒が夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育むことができる学校
- ④ 偏見や差別をなくし、自他の生命を大切にし、お互いを尊重できる学校

### (2) めざす生徒像

- ① 多様な「まなび」を通して自らの能力やスキルを向上させることができる生徒
- ② 自分の夢や目標達成のため向上心を持って新しいことにチャレンジできる生徒
- ③ 国際理解、人権尊重、他者に対して優しさや思いやりが持てる心豊かな生徒

### (3) めざす教師像

- ① 生徒の学ぶ意欲と熱意に応えて、生徒ファーストで学びの実践ができる教師
- ② 積極的に生徒一人一人と関わりながら、生徒の良さを見つけ・認め・励まし・伸ばす指導ができる教師
- ③ 教師としての誇りと自覚をもち、人間力・授業力・生徒理解力・危機管理能力等、自らの資質・能力の向上に研鑽する教師
- ④ 生徒端末や電子黒板などのＩＣＴ機器を活用した授業づくりに研修を積む教師

## 2 本年度の重点目標

### (1) 生徒の基礎学力を定着させるとともに、様々な体験活動を充実を図る。

- ① 生徒のニーズに対応した、きめ細やかな授業実践を行う。
- ② 校外活動をはじめ、体験的な活動の充実を図る。

### (2) 幅広い年齢層と様々な国籍の生徒の特色を生かした教育活動を推進する。

- ① 様々な年齢層や国籍の生徒が、交流し互いに学び合える機会を提供し、生徒の経験や専門性を生かせる機会を設ける。

### (3) 近隣の学校との交流活動を深め、生徒相互で学び合う関係性を高める。

- ① 中央高校夜間部との交流を深める。
- ② 近隣の学校との交流の機会を作り、積極的に教育活動を発信する。

### (4) 学校と地域の方々と連携・協働し、定期的な情報発信をする。

- ① 各県からの視察や取材を積極的に受け入れ本校の取組を紹介する。
- ② HPを通じて、本校の学校行事などの教育活動を積極的に発信する。

### (5) 教職員の資質向上

- ① コンプライアンスの推進（ハラスメント行為、性暴力等の根絶徹底と高い倫理観、強い使命感の醸成）
- ② 働き方改革の推進（業務の効率化と簡素化を推進）

## 令和6年度 徳島県立しらさぎ中学校 学校評価計画

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評 価		
(1)	評価指標(数値目標)  ①-1 生徒のニーズを確実に把握し、それぞれの目標に応じた授業を展開し、授業満足度を80%以上にする。 (GIGA・学力向上) ①-2 授業力の向上や改善を図り、ICT機器を活用するなど、分かる授業を心がけ、授業の内容の理解度を70%以上にする。 (GIGA・学力向上課) ①-3 日本語指導の充実を図り、授業満足度を80%以上にする。 (校内研修課) ②-1 体験的な学習を学期に2回以上実施する。 (特別活動課) ②-2 魅力のある校外での体験学習を企画し、日程等の工夫を図り、参加率を60%以上にする。 (特別活動課)	活動計画  ①-1 個人懇談をはじめ、生徒からの聞き取りの機会を定期的に確保するとともにしっかりと情報を共有する。 ①-2 電子黒板の活用方法など授業研修の機会を設け、ICT活用力を高める。 ①-3 日本語指導担当教員を中心に、授業内容の検討や工夫を図る。 ②-1 季節の行事や、徳島の伝統や文化に触れる体験活動を計画的に行う。 ②-2 生活に生かせるような体験学習を企画するとともに、参加しやすい日程を調整する。	実施状況及び達成度  ①-1 個人懇談などを中心に聞き取った生徒一人一人の思いや目標を共有し、生徒のニーズに合わせた授業を展開した結果、満足度は前期96%、後期100%を達成した。 ①-2 電子黒板などICTを積極的に活用して、分かる授業を心がけ実践した結果、理解度は前期、後期ともに92%を達成した。 ①-3 継続的に研修を行ったり、各教科と連携を図ったりして、授業を工夫して行った結果、満足度93%を達成した。 ②-1 校外での藍染め体験や遍路体験をはじめ、季節の行事などの体験的な活動を学期ごとに実施することができた。 ②-2 日曜日の午前中に校外での体験活動を実施し、藍染め体験と遍路体験で参加率は76%であった。	(評定) A  (所見) 個人面談と観察を通して、生徒のニーズの把握に努めた。毎週の生徒理解ミーティングで、教職員全員と情報共有を図りながら、対応策を考えた。その結果、個々のニーズや希望に合った授業実践ができた。校外学習の参加率がさらに高まるよう、活動内容を見直すとともに、事前指導を充実させるなど参加意欲を高める工夫を行っていった。	教職員のきめ細かな対応や努力によって、生徒のニーズに合った授業展開ができ満足度も高いが、誰一人取り残さない教育を進めていくために、授業への満足度・理解度が低い生徒のニーズや思いにも応えられるように授業の工夫・改善を図っていきたい。そのため、生徒理解ミーティングも引き続き継続して行い、生徒一人一人の思いをしっかりと聞き取っていきたい。 また、チームティーチングによる個別指導を充実させ、生徒一人一人に適した指導・支援ができるよう、教員間の事前打ち合わせや情報共有を密に行っていきたい。
(2)	①-1 様々な年代や国籍の生徒が交流できる行事を学期に2回以上実施する。 (キャリア教育課) ①-2 生徒の様々な経験や専門性を生かした行事を学期に1回以上実施する。 (キャリア教育課) ①-3 多国籍の生徒が在籍する特色を生かした行事を、学期に1回以上実施する。 (キャリア教育課)	①-1 生徒会と協力しながら、交流できる行事を計画する。 ①-2 生徒が先生となって経験や専門性を生かして活躍できる機会を作る。 ①-3 様々な国の文化や生活様式を紹介したり、生徒同士が協働して体験できる機会を作る。	①-1 生徒会主催の交流会や球技大会など、学期に2回以上の行事を実施できた。 ①-2 昨年に引き続き、生徒が経験や専門性を生かして活躍できる学習文化発表会を開催することができた。 ①-3 國際理解教育として、本校にルーツのある国を紹介するなどの学習活動を行った。生徒が主体的に生き生きと活動し、グループで協力して学習成果を発表することができた。	(評定) A  (所見) 様々な年代や国籍の生徒が交流できる機会をつくることができた。特に、生徒会が中心となってアイデアを出し合い、すべての生徒が楽しむことのできる活動を考えて実践できた。	学習文化発表会では、生徒が中心になって計画し、アイデアを出し合って取り組む活動を行うことができた。本校にとって、授業をコースごとに行っているため、全校生徒が交流する機会はとても大切である。次年度も生徒の意見を聞きながら、生徒の経験や、多国籍の生徒がいる特色を生かした活動を実施していくたい。

重点 課題	自 己 評 價			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評価		
(3) ①	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び達成度	(評定) A  (所見) 中央高校夜間部とは連携を密にしながら、各担当が話し合いを進め、様々な行事を合同で開催することができた。交流会も、実施可能な方法や時期を探りながら開催し、今年度はeスポーツを活用したオンライン交流にもチャレンジできた。県外夜間学級との交流が有益なものとなるように、教員だけでなく、生徒の主体性を生かした活動となるように今年度の交流を見直していきたい。	昨年に引き続き、中央高校夜間部と合同の学校行事を多く実施できた。生徒アンケートから交流に対する満足度は目標を達成したが、交流の深まりに対しても、目標を達成することができなかった。夜間部の生徒としらさぎ中学校の生徒は年齢層や生活経験が大きく異なるのでその部分を生かして交流が深まるような活動内容を計画していきたい。 また、交流の満足度を高め、交流によって関係が深まるように、両校の生徒会が中心となって企画・運営ができるように工夫していきたい。 近隣の学校との交流については、学校生活の時間が異なる昼間の中学校や小学校との交流についても、進めていきたい。そのため、作品交流や文化交流など、これまで取り組んでこななかった形での交流も取り入れていきたい。
②	①-1 中央高校夜間部との交流会 ・交流行事を学期に2回以上実施し、交流の満足度を80%以上にする。  (特別活動課) ①-2 交流会や交交流事を通して、関係が深まると答える生徒を80%以上にする。  (特別活動課)	①-1 中央高校夜間部と連携を図り、合同で実施できる行事を洗い出す。生徒会と連携して、交流会等の企画を計画的に行う。  ①-2 年代・国籍に関係なく自分の思いや考えを語ることができる場面を活動に多く取り入れる。	①-1 中央高校夜間部と連携して交通安全教室や芸術鑑賞会など、合同の行事を学期に3回程度実施した。生徒会主催の交流会も学期に1回程度実施した。この結果、満足度83%を達成した。  ①-2 学期に1回の語り場や交流会でのポッチャ大会などを開催した結果、交流が深まると答えた生徒は92%であった。そう思わない回答した生徒を取り残さないようにしていきたい。	②-1 今年度はオンラインで自己紹介や学校紹介などを行うだけではなくeスポーツを利用した交流も実施した。	

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評価		
(4) ①	評価指標(数値目標)	活動計画	実施状況及び達成度	(評定) A  (所見) 県内外の視察や取材を積極的に受け入れることで、夜間学級の意義や本校の特色ある取組を多くの方に発信することができた。	県内外からの視察受け入れや他県の先進校の研究視察を通して、他県の取組を知ることができたとともに、本校の教育活動を見直す機会を得ることができた。 今後も積極的に視察を受け入れ、全国初の公立夜間中学校として開校した本校の役目を果たしていきたい。 次年度、全ての県立学校においてホームページの大幅な変更がある。この機会を生かし、本校生徒にとつて使いたいと思えるような工夫をしていきたい。また、本校への入学を考えている方により良い発信ができるよう見直していきたい。
	①-1 県外からの視察や新聞社、放送局からの取材依頼を積極的に受け入れ、本校の教育活動を発信する。  (管理職)	①-1 開校をめざす自治体や夜間中学校への入学を考えている方への一助となるように、3年を終えて、蓄積された本校の教育課程や指導方法の成果と課題が紹介できるようにし、発信の仕方を工夫する。	①-1 今年度は県外の教育委員会や他県夜間中学校から14件の視察を受け入れ、開校に向けて効果的であった取組や本校ならではの教育活動を紹介することができた。また、京都市立洛友中学校をはじめ県外夜間中学校からの視察ではの夜間中学校ならではの苦労や工夫を共有することができた。		
(5) ①	②-1 H Pを通じて、本校の学校行事を積極的に発信するとともに、本校生徒にとって有益な情報を発信し、本校生徒のホームページ利用率60%をめざす。  (人権教育課)	②-1 個人情報や肖像権などに配慮するとともに、入学を希望する生徒や在校生にとって有益な情報を1ヶ月に10回以上発信する。	②-1 1月7日現在で100回ホームページを更新し、普段の授業風景などを公開した。その結果、アクセス数は1247万回を超えて、多くの方に本校の活動を発信することができた。本校生徒のホームページ利用率は67%（週1回程度37%、月1回程度30%）であった。	(評定) B  ハラスメント行為や性暴力等を根絶するために年間計画にあわせて研修を実施できた。今後は研修に対する負担感を軽減するための工夫をしていきたい。県立学校における時間外在校時間の削減目標を達成することはできたが、仕事の持ち帰りをしている教員がいることを考えると、さらなる校務の見直しや年休の取りやすい雰囲気づくりが必要である。	性暴力等の根絶、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観の醸成に向けて、今後も計画的な研修を実施していきたい。また、研修に対する負担感を軽減するために短時間でできる研修を計画することや役に立つたと思えるような本校の実態や課題に即した研修を計画していきた。 ワークライフバランスのとれた働き方の推進においては、教員が心身共に元気に働けるより良い職場環境が築いていくために、今後とも校務の見直しや年休を取得しやすい雰囲気づくりをさらにもう一步進めいかなければならないと感じている。
	①-1 管理職による教職員面接を年2回以上実施し、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観の醸成に務める。  (管理職)	①-1 教職員との積極的な対話を通じ教職員一人一人の理解を深めるとともに、適切な指導・助言に努める。	①-1 管理職による教職員面接を実施するとともに、適宜、必要に応じて教員との面接を実施した。聞き取った内容の一部ではあるが、教員の倫理観向上の取組に生かすことができた。		
(5) ②	①-2 性暴力等を根絶するための「対策パッケージ」によるセルフチェック、組織チェックを年3回以上実施し、性暴力等を起こさせない職場風土や慣習・文化を構築する。  (管理職)	①-2 「対策パッケージによる」セルフチェック及び組織チェックをコンプライアンス年間計画に組み込み計画的に適宜・適切な研修を実施する。	①-2 今年度から、性暴力等を根絶するための「対策パッケージ」を学期ごとに実施した。また、12月には性暴力等を根絶に向けたeラーニングにすべての教員が取り組んだ。	(評定) C  定時退勤をすることの大切さを適宜呼びかけた。また、長期休業期間には、閉庁日を設けて年休の積極的な取得を呼びかけた。その結果、時間外在校時間を週当たり26時間以内にするという県立学校の目標時間を超える教員はいなかった。	性暴力等の根絶、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観の醸成に向けて、今後も計画的な研修を実施していきたい。また、研修に対する負担感を軽減するために短時間でできる研修を計画することや役に立つたと思えるような本校の実態や課題に即した研修を計画していきた。 ワークライフバランスのとれた働き方の推進においては、教員が心身共に元気に働けるより良い職場環境が築いていくために、今後とも校務の見直しや年休を取得しやすい雰囲気づくりをさらにもう一步進めいかなければならないと感じている。
	② ワークライフバランスのとれた働き方を推進し、教員が心身共に元気に働く風通しの良い職場環境を作る。  (管理職)	② 校務負担のバランスに配慮し、年休の取りやすい雰囲気作りと、定時退勤を心がける。	② 定時退勤をすることの大切さを適宜呼びかけた。また、長期休業期間には、閉庁日を設けて年休の積極的な取得を呼びかけた。その結果、時間外在校時間を週当たり26時間以内にするという県立学校の目標時間を超える教員はいなかった。		

「評定」の基準

A : 十分達成できた

B : 概ね達成できた

C : 達成できなかつた